

中馬街道の景観を守り、屋敷内に道祖神を祀り、常夜灯に点灯、5 神遙拝組中安全を願い、旅人付通し中馬、牛方に心くばりしてきた曾木大草。

美濃・尾張・三河の国境村々は、中馬街道によって名古屋と飯田を結び付けています。

曾木町大草は、旗本明知領の名古屋の最近の村です。海運により各地から運ばれた荷物と名古屋からの商品は、柿野・明知・上村を中継し、信州平谷を経て飯田に運ばれました。

反対に飯田からの商品も、この道を通して名古屋方面に出荷されていました。中継宿で行先に分けてから送りだしました。中馬は付通し運送と中継運送で、飯田からの荷物は信州中馬と上村中馬によって明知へ、明知から柿野までは恵那郡の中馬、柿野から名古屋までは、柿野と瀬戸の境は急坂さかせの難所ですので、坂道に強い水上の牛方が運んでいました。

曾木の太草は、美濃・三河の国境の山を水源として流れ出して水田の中を流れ下り、東西に連なる里山の麓を街道が通り、小川のほとりに桜屋（本家）、新屋（分家）、梅屋が集落の中心です。

宿機能を持ち、中馬街道に関すること、回米など陣屋関係の役を果たしていました。梅屋から西は石垣を積んで屋敷を造成し、街村状に家屋が建っていました。どの家も中馬街道に面した地に屋敷神として道祖神を祀っています。

疫病や悪霊が家内に入らないように祈り、通行する牛馬や人々の旅の安全を祈りました。

常夜灯は毎夜点灯し、太神宮・金毘羅山・弁財天・水徳龍王神・秋葉山を遙拝して組の安全を祈り、通行する人に灯をとどけます。牛宿は牛方の助けとなり、馬頭観音は高遠の付通し中馬の建立、常夜灯は高遠石工の作、中馬稼に里山の薪、陶器の依頼するなど中馬稼にかかわり豊かにしてきました。旅稼ぎの人々の力を活用しながら道祖神を祀り、通行者を助けてきました。中馬稼が通った中馬街道は明治に車の通る道に改修し、瀬戸ー明知の道に中馬街道と命名しました。鉄道を通すことに挫折し国道昇格を目指した 363 号の道の三本の道がみられる。山なみ遙か商い道を今に伝えています。



中馬街道、大草の中心地【新屋、桜屋（酒屋）】



新屋（街屋造り）、梅屋（雑貨店跡）



常夜灯（5 神社遙拝所）
高遠石工 北原七兵衛 作



屋敷神（道祖神）
桜屋

